

株式会社 あぐりー石 （石川県白山市）

代表取締役 新田 義宣

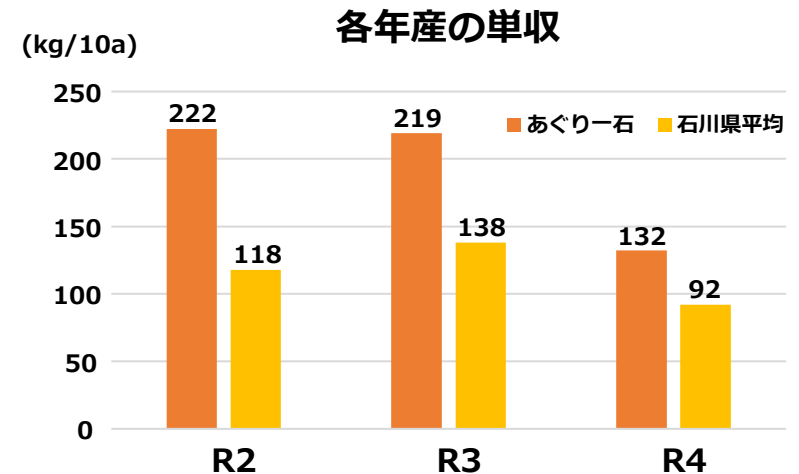
PRポイント：地域の受け皿としての機能を果たしながら、集落全体の生産性向上に貢献

設立年月：平成22年4月

構成員：社長、役員4名、従業員4名

基幹作物：大豆（里のほほえみ）27ha、
水稲80ha、大麦9ha（R5）

特 徴：リタイアする地域農家の受け皿として貢献しながら、米・麦・大豆の体系の下で規模拡大し、将来の地域の担い手として期待される集団。管内のトップランナーとして、30代の若手が多数在籍し、農家間交流や先進技術の導入などにおいて他の生産者を牽引する存在。



栽培上のポイント

- 里のほほえみの特徴（倒れにくく、最下着莢節位高が高い）を踏まえ、これまでの畝立同時播種から狭畔栽培に変え、耕起・整地・施肥・播種までの機械化体系を確立。作業の効率化や排水対策の徹底により収益力の向上を図る。
- 令和5年に経営面積が約30ha増えたことにより、播種機をもう一台導入し、適期播種に努める。
- 令和3年度から散布用ドローンを取得し、基幹防除で活用することで、適期防除と省力化を実現。また、圃場管理システムの導入で、追肥の可否等を判断することで、適正施肥による生産コストの低減を実現。



経営のポイント

- 農家間交流を積極的に行うとともに、若手を中心として、先進技術をいち早く取り入れ、実践することから、視察に訪れる経営体も多く、地区の中心的経営体。
- 市場の需要に応じた作物計画を策定し、周辺農家と協力して団地化を形成するなど、地域農業の生産性向上に貢献。

大豆生産における課題

- 北陸地方は天候によって播種ができないこともあるため、適期に播種を終えられるよう、作業速度の速い機械が必要。また、晩播しても現在と同程度の時期に刈り取りできる品種があるとよい。
- 播種後の降雨により除草剤の効果が安定しないため、除草体系の見直しが必要。
- ドローンでの雑草防除が行えるよう、除草剤の適用拡大を要望。
- 近年、収量が低下傾向にあるため、追肥や深層施肥等、肥培管理の見直しを検討。

今後の目標

- 県内のみならず県外実需者の要望（味噌、醤油メーカー等）にも対応し、需要に応じた生産を展開。今後は、現在の農地100haを200haへと規模拡大する意向。
- 面積が増えても、安定した収量を確保できるような栽培技術の向上を図る。